

中国ルポの見事な達成

アラン・パールフィット著
中国が目ざめるとき
世界は震撼する 上・下

われわれの同時代史の扉を開くとき、この五月、文化大革命の直後の時期であった。周恩来総理と三回も会見しているといえ、その旅行コースは、多くの訪問団と同様の月並みなものであるが、著

者にあらゆる面で一般の訪中者とは異なる視点をもっていた。それは今日の中国を第一に歴史の相対性において、第二には民族の相対性において、第三には判断における相対性において、さらそうとする基本的態度がこらえてある。

なほ、サルトルらのフランス者の立場へぐんぐん引っぱりつづけてゆく。翻訳も実に周到で力こもったものである。(杉形利英訳、各四六判の三四三頁・一三〇〇円②二七八頁・一三〇〇円①白水社) (なかにま・みねお氏) 東京外国語大学助教授・現代中国学専攻

膨大で重厚な内容

問いに満ちた視線でリアルに観察

中 嶋 嶺 雄

膨大で重厚な内容、問いに満ちた視線でリアルに観察。著者は、トル派の有数の政治家であり、中国専門家ではないが、そのような著書をして、これほど密度の濃いルポルターージュを成し遂げた背景はなにか。著者のしたたかな観察力と情熱もまたこのなかから、フランス人の民族的個性と伝統的なフランス・シノロジーの視野を感じさせずにはおかない。しかもフランスでは、この膨大かつ

「膨大で重厚な内容」といってよい。「ところが、あるものは政権の成功に心を奪われて、それに払われた代価を忘れる。他のものはこの犠牲に目がくらんで、成功を否定する。」著者は、そのような中国観に食傷してきただけに、「中国は、これまでに人類のいかなる社会も経験したことのないもとも根源的な革命の冒険にのりだした国なのである」からこそ「中国への視線はすべて問いに満ちたものでなければならぬ」と考える。

★アラン・パールフィット (一九二五-) はフランスの国民議会文化・社会委員会委員長。UDR書記長。ド・ゴール派指導者の一人。写真は周恩来首相と対談するパールフィット。本書から

重厚なルポルターージュが七三年夏の発売以来一年にして五十万部も売れたというから驚く。著者がフランス議員団長として中国を訪れたのは一九七一年五月、文化大革命の直後の時期であった。周恩来総理と三回も会見しているといえ、その旅行コースは、多くの訪問団と同様の月並みなものであるが、著

者にあらゆる面で一般の訪中者とは異なる視点をもっていた。それは今日の中国を第一に歴史の相対性において、第二には民族の相対性において、第三には判断における相対性において、さらそうとする基本的態度がこらえてある。

